

1. 5/22、首都プノンペンで大停電発生

ベトナムからの電力供給が遮断された事により、プノンペンのほぼ全土で5月22日の午後から大停電が発生した。公式発表はないが、インターネットプロバイダーのDigi社によると、今回も主な原因はベトナムとカンボジアを繋ぐスヴァイリエン州の電線に問題が発生したようである。しかし、主幹省の匿名の担当者は、ベトナムのプラントで午後2時より問題が発生したためだと話している。

2. バングラデシュのビル崩落事故がカンボジアに与えるもの

バングラデシュは5つの縫製工場を含むRana Plazaビルの崩落事故により、1,100人以上の死者が発生するという未曾有の大惨事が、まだまだ尾を引いている。今後、バングラデシュの縫製業を揺るがしたこの工場の崩落事故の影響で、海外からのバングラデシュへのオーダーが、カンボジアを含む他国へオーダーが流れる事が考えられる。しかしながら、カンボジアの縫製業会はいまだ怒濤のように殺到するビジネスを経験しておらず、産業界の中からは長期的なビジョンを考えると、今からそれらの受け皿準備が必要だと言う声が聞かれる。

GMACのVan Sou Ieng会長は、「今の所、バングラデシュの崩落事故の影響により短期的なオーダー増はありますが、そこまでカンボジアにはポジティブな影響はありません。そもそもカンボジアの工場では、これ以上の受注を受けるのが厳しいのが現状です」と、述べている。American Center for International Labor Solidarityのカンボジア統括者のDavid Welsh氏は、「バングラデシュの状況が好転しなければ、小売業が製造場所を探し、大移動が始まる事も考えられる」と話したが、GMACのVan会長は、「バングラデシュはカンボジアより低賃金であるが故、どんな問題があろうとも引き続きバングラデシュが拠点となるだろう」、という見解を示した。

3. 5/16、アシックス社の仕事を請負っている靴工場 Wing Star Shoes 社で、中2階崩落事故発生 2名死亡

Kampong Speu州Kong Pisei地区にある靴工場において、工場の中2階が崩れ2人が死亡するという事件が起こった。警察官など数百人が迅速に集まって、瓦礫の中から被災者を助け出す作業を行った。事故が起こったのはWing Star Shoes社で、労働者たちがちょうど出勤し始めた朝の7時半頃に2階の床が崩れ落ちたようだ。死亡した24歳のReung Chakさんは、同僚の話によれば、ほんの1か月前に父親になったばかりのようだ。また、同じく死亡したSim Srey Touchさんは、まだ15歳の女の子で、年齢を偽ってここで働いていた。Srey Touchさんの母親のNoun Ngetさんは、記者に対し、「娘はまだ15歳だったがWing Star Shoe社の仕事につくために嘘をついた。5月2日から働き始めたばかりで、まだ給料ももらっていません。工場からの賠償金などありません。娘に帰ってきてほしいのです」と話した。



Kampong Speu州警察のMen Siborn氏は、「これまでの情報では、労働者の2人が死亡し11人が負傷したとされています。11人のうち2人は病院で手当を受けずに家に帰宅しております」と話した。Wing Star Shoes社はカンボジア縫製業協会に登録している会社で、日本の靴メーカー:アシックスの製品の生産を請負っていた。会社の理事を務めるChea Sothavirith氏は、2人が死亡し11人が負傷したことに関しては認めたものの、会社が賠償金を支払うかどうかに関するコメントは避けていた。しかし最終的に遺族に15,500ドル、怪我をした労働者に1,000ドルの支払いを決定した。

また社会問題・退役軍人・青少年更正省のIth Sam Heng氏は、記者会見において、「政府が犠牲者への賠償金を支払う」、と話し、「このようなケースは我が国で初めて起こります。これまでは、労働者の失神が主な問題でした。これから我々は調査委員会を発足させて、国中すべての工場の視察を行います」と、原因究明を追求する旨を話した。

カンボジア縫製業協会の事務局長Ken Loo氏は、「このような問題が起こったのは大きな問題であるが、責任を追求すべきなのはWing Star Shoes社ではなく建築請負業者の方なのでは」、と話をしている。また「バングラデシュで起こった事件とも本件は違います。これはたまたま起こった事故です」とも述べた。

4. 5/21、崩落事故の Wing Star Shoes 社で失神者21人が発生



5/21、20人以上の従業員が Wing Star Shoes 社で失神した。労働者及び会社側の発表によると、電気のショートが発生し、それにより恐怖を覚えた従業員が崩落事故の悲劇を彷彿とさせたためと言う。そのショートにより21人が失神し、病院に運ばれたが、全員現在は回復しているという。

Wing Star 社の労働組合の Hong Seng Lim さんは、「電気ショートはとても大きな音で、それに脅えた労働者たちは工場から逃げ出そうとしたのです」と状況を話した。労働者の Yu Manith さん(31)は病院に運ばれた1人であり「皆が出口に向かって走り始め、とても混乱しました。明日、仕事に行けるかどうかまだ分かりません」と話した。

5. 5/23・24、Sabrina garment 社にてストライキ発生

4,000 人の労働者が労働環境改善などを求めて、Sabrina Garment 社前でストライキを実施した。Free Trade Union 職員の Thorn Thol 氏は、「工場側が放水車を使い、抗議者に向けて 5 分程度放水しました。幸いな事に誰も怪我はしていません」と話している。また国道 4 号線の封鎖を実施したものの、政府役人が交渉にやって来たため、封鎖は解かれた。しかし交渉の結果、工場側は月給 94 ドルへの値上げ、残業代の支払い、1 日 1 ドルの昼食補助、それら全ての要求を却下した。Thorn Thol 氏は「雇用側は、労働者の要望に応えられる状況にはない、と話している」と述べた。Sabrina Garment 社側はコメントを拒否している。

6. 5/23・24、Kampong Speu 社他にてストライキ発生

Free Trade Union 職員の Thorn Thol 氏は、「Kampong Speu 社と労働者間で、労働者たちは賃金の上昇、交通費補助、住居、食事補助を求めて交渉が行われているものの、現段階では不調に終わっている」と述べた。しかし、「引き続き交渉する」、としている。

一方でタケオ州の V-Masou garment 社は、投石などで国道 3 号線を一時封鎖するなどストライキを行い、より良い職場環境を工場側に求めて続けている。

7. 5/17、日本政府が高速道路の整備に 9,000 万ドル貸付

先月、日本政府との間で合意に達した 9,000 万ドルの貸付について、国道 5 号線(Battambang から Sri Sophorn 間)の 83.5 キロの環境改善に使用される事が、カンボジアの Keat Chhon 経済・金融大臣と JICA の荒川博人副代表の間で合意に達した。荒川副代表は、「この建設にまつわるプロジェクトはとても有益なものになるだろう。特に物流網の向上は投資の呼び込みにも繋がり、プノンペンからタイ国境へのアクセスだけではなく、ゆくゆくはベトナムへのアクセスへも結びつくだろう」と話した。本プロジェクトは 2015 年 6 月から 2018 年 5 月に行われ、貸付の利子は年 0.01%となり、40 年の期間が設けられた。

8. 5/20、各地のキリングフィールドでの慰霊祭



1,000 人以上に及ぶ与党関係者、そして約 100 名の僧侶が、クメール・ルージュの被害者を追悼するため、5 月 20 日“怒りの日(Day of Anger)”に、プノンペンのキリングフィールドに集まった。この慰霊祭でも、ポル・ポト派による虐殺劇が行われた。複数名の演者がクメール・ルージュの兵士として無罪の人々を引き連れ銃や鍬を携帯し現れた。Kep Chuktema 前プノンペン知事は、「この祭典とこの演技を、今日の人々が、大量殺戮時代がどのようなものかを知るという意味で、たいへん大事である。この演技は本当に当時起こった事なのです。我々は忘れる事ができません。それが本当の姿だったのですから」と話した。

Sar Wannith さん(38)は「当時私は子どもでした。そして何が起こっていたのか、覚えていません。今回、祭典に参加して何が行われたのかを見ました。そして、私の家族に、そしてカンボジア人に何が起こったのか、記憶の端々をよみがえらせられました」と述べた。

Acha Ma さん(52)は「1979 年に、ここチュニク(キリングフィールドがある場所)では、8,985 もの死体が発見されました。私たちがここに来たとき、あまりの恐怖で鳥肌が立ちました。私たちは助けを呼ぶ声、拷問による叫びが聞こえるような

想いでした。今日は、私たちは天国にいる被害者の人たちに祈りを捧げるべきです」と、語ってくれた。

Documentation Center of Cambodia の Youk Chhang 代表は、「カンボジア人民党は名声を高めるためにこの日を作りましたが、この日をどのようにとらえるかは、個々のカンボジア人次第です」と話した。

9. カンボジア人民党政権、「虐殺否定情報」で野党たたき

カンボジアで大量虐殺を引き起こしたポル・ポト派による犯罪行為を否定する言動に、刑罰を科す法案への対応をめぐり、フン・セン首相率いる政府・与党の「強権ぶり」に内外から懸念の声が広がっている。

野党カンボジア救国党のケム・ソカ副党首が、「悪名高いトゥールスレン政治犯収容所での残虐行為はベトナムの“作り話”と語った」とされる音声テープが、政府系メディアで報じられ、それに対しフン・セン首相が5/27に虐殺否定禁止法の制定を呼び掛けた。法案の内容は、ポル・ポト派による犯罪行為を否定したり異議を唱えたりした場合、最高で禁錮2年か400万里エル(約10万円)の罰金を科すというもの。この法案は下院で可決されたが、米務省は8日、「健全な民主的プロセスに完全に反する」として「深い懸念」を表明する声明を発表。

7月28日に総選挙を控える中、法案の起草・可決が短期間で進められたことに、野党カンボジア救国党や地元の人権団体は、「そもそも問題の音声テープは、話の筋もおかしく、デッチ上げだ」と主張している。プノンペン外交筋は「与党側は、物価の高騰などで政権への不満が高まり、総選挙で野党が議席を伸ばすことを警戒している」と指摘しており、今回の法案が総選挙を前に野党たたきに利用されているのは間違いなさそうだ。

10. 最近の外資の進出状況

・5/23、イオンがマイクロファイナンス事業を開始

イオンマイクロファイナンス(カンボジア)社が農業部門での分割払いのサービス拡大を進めている。「私たちは農業機器類の店や、2,000ドル程度の耕耘機を供給する側と提携していくつもりです。しかし、私たちは農家の月々の収入がそこまでないことも知っていますので、まずはマーケットを確認し、マーケットの要求に応じて、事業計画を変更していきます」とマエダダイスケ代表は話した。イオンは他社と比べて、月 3.3%と利子は高いが、担保は取らない。Cambodia Microfinance Association and chairman of microfinance institution Sathapana Ltd の Bun Mony 氏は、「他社は利子は低い担保を取るが、AEON は、利子は高い担保は取らない、AEON が、専門性が高ければ、成功するのではないか」と話している。

・6/06、日本精密、カンボジアに子会社設立

6/06、日本精密は、カンボジアに時計外装部品などの製造・販売の全額出資子会社「ニッセイ・カンボジア」(バベット市プレイアングン経済特区、資本金5千万円)を設立したと発表。中国の協力工場などから部材を調達し、既設のベトナム工場の分工場として一段の低コスト生産を進める。

・台湾の銀行のカンボジア進出が加速へ

台湾の銀行のカンボジア進出が加速する見通しだ。同国が株式市場を設置したことで、融資先企業の財務透明度の向上が見込まれるほか、海外企業の進出が増えたり、産業や不動産市場が成長したりすることで、資産管理などビジネスチャンスの拡大が期待されるため。

以上